

令和2年度(2020年度)

## 病害虫発生予察情報 第12号

### 特殊報第1号

北海道病害虫防除所 令和2年(2020年)8月18日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

## ツマジロクサヨトウの確認について

発生確認作物: -

病害虫名: ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)

### 1. 発生の確認経過

- (1) 道総研中央農業試験場(長沼町)のスイートコーンほ場に設置したツマジロクサヨトウ用フェロモントラップにおいて、8月7日、本種と疑われる成虫1頭が捕獲された(写真1)。横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、8月11日に本道未発生のツマジロクサヨトウ(*Spodoptera frugiperda*)であることが確認された。
- (2) 本種は、国内においては前年7月に鹿児島県で初めて発生が確認され、同年10月には青森県で幼虫が確認されるなど、合計21府県で発生が認められた。本年は8月12日現在において30県で本種の発生が認められている。
- (3) 道内では現在、農作物における本種幼虫の発生および被害は確認されていない。

### 2. 形態および生態

- (1) 本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。本種の分布地域は、原産地の北米～南米から、2016年以降はアフリカ(エジプト、サハラ以南)、アジア(イエメン、パキスタン、インド、中国、台湾、日本、韓国、東南アジアなど)、オーストラリアに拡大している。
- (2) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅に淡色斑と白斑を持つ(写真2)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。幼虫は頭部の複眼と前額の境界にみられる逆Y字状の模様(写真3)および尾部の斑点が特徴であり、終齢幼虫は体長約40mmとなる。
- (3) 成虫は1世代で500km、1晩で最大100km移動することもあるなど長距離飛翔することが知られている。卵は寄主植物の葉の主に裏側に150～200個、最大300個が卵塊で産み付けられる。雌成虫は最大1000個の卵を産む。幼虫は、植物の葉、茎、花および果実を食害する。とうもろこしでは、若齢幼虫は葉裏から食害し、被害葉は表皮が白く残り、中齢幼虫は若い葉を食害し不定形の穴を多数開け、老熟幼虫は茎頂部や雌穂に潜り込み、未展開葉や子実を加害し、食害部周辺に大量の糞を残す。
- (4) 国内で発生が確認された農作物は、イネ科作物(とうもろこし、ソルガム、さとうきび、イネ科牧草、もちきび、はとむぎ、えん麦)、しょうがである。文献では広範囲な作物を加害するとされており、道内で栽培されている作物では上記の他に、水稻、小麦、ばれいしょ、てんさい、豆類(大豆、菜豆、えんどう)、そば、たまねぎ、にんにく、アスパラガス、ほうれんそう、いちご、アブラナ科野菜(キャベツ、だいこん、かぶなど)、ウリ科野菜(かぼちゃ、メロン、すいか、きゅうりなど)、ナス科野菜(トマト、ピーマン、なすなど)、果樹(りんご、ぶどう、西洋なし、ブルーベリーなど)があげられる。

### 3. 防除対策

- (1) 道外では、とうもろこしにおいて見つかる事例が多いことから、とうもろこし栽培ほ場では定期的に見回りを行い、早期発見に努める。本種と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに最寄りの農業改良普及センター、農業試験場、病害虫防除所まで連絡する。
- (2) 本種の発生が確認された場合、ツマジロクサヨトウに対する登録農薬はないため、道は植物防疫法第29条第1項の規定により、国が指定する薬剤の散布指導を行う。本種に対して使用できる農薬については、次の農林水産省ホームページを参照のこと。

農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」URL:

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

- (3) 収穫期の飼料用とうもろこしにおいては、農薬散布が困難な場合は、幼虫の分散を防ぐため早期収穫に努めるとともに、収穫後は速やかに残渣をすき込む。老齢幼虫に対しては農薬の効果が低下するため、スイートコーンにおいては、早めの薬剤防除を心がけ、収穫後は速やかに残渣をすき込む。すき込みの実施に当たっては、植物体を破碎し、幼虫やさなぎを土中深くに埋没するよう、土の表面に作物が見えなくなるまで深くすき込み(深さの目安 12cm以上)を2回以上行う。



写真1:フェロモントラップ誘殺虫



写真2:ツマジロクサヨトウの雄成虫(左)、雌成虫(右)(開長 37mm)



写真3:ツマジロクサヨトウ老齢幼虫(体長 40mm)

写真2、3は農林水産省HPより